

国際協力研究科「教育コース」

ーアジアの教育開発・教育交流の
エキスパートの養成をめざしてー

大学院国際協力研究科
教育コース主任

中山修一

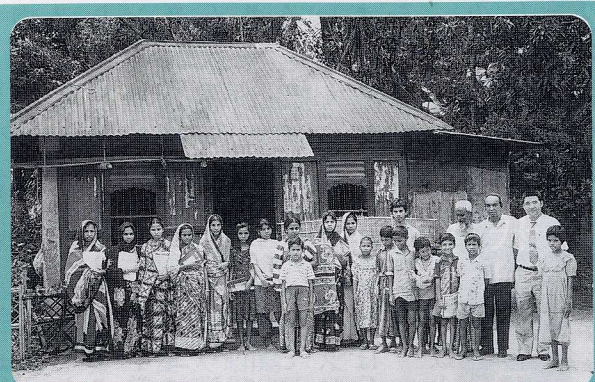
はじめに

本年四月に発足したばかりの教育・文化専攻は、教育コースと文化コースの二つの柱で成り立っている。四月十一日、十二日に入学試験、同月二十四日に入学式を済ませ、翌日から授業開始というあわただしい出発であった。

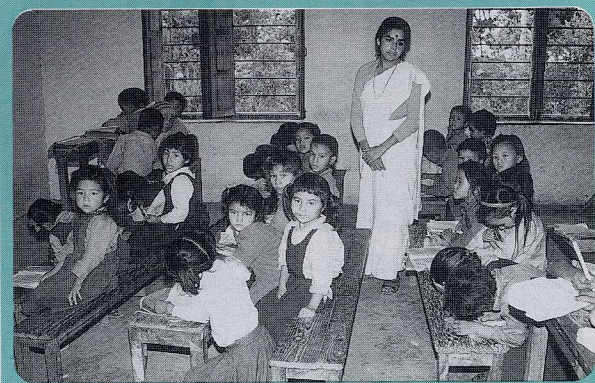
本研究科はまだ独立建物がないため、複数の学部での間借り生活で、一部に、教官室の一室二人使用、学生控室不足等の不便を抱えているものの、ともかく全学的支援のお陰でスタートすることができた。

教育コースの夢

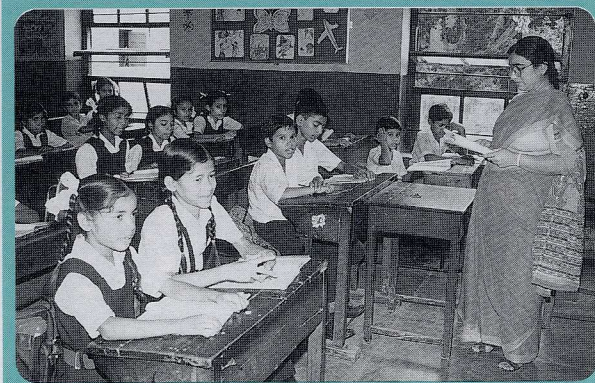
教育コースは、図1のカリキュラムに見られるとおり、教育における国際交流を身近に体験しながら、その在り方のモデルを創造し、また、国際的教育研究・活動をとらえて世界平和の実現と持続的発展のための道筋を、理論的・実証的に教育・研究することをめざして開設された。



バングラデシュの首都ダッカ近郊村の女性成人識字学舎と生徒 (1991年7月筆者撮影)



ネパールの首都カトマンドゥー近郊村の机のない小学校 (1991年8月筆者撮影)



インドの首都デリー市の国立デリー大学附属小学校の設備の整ったクラス (1991年8月筆者撮影)

当面はアジアの発展途上国を対象に、また、将来は世界の国々を対象に、教育政策・制度、カリキュラム、教材などのミクロな調査・研究を、現地の文化特性を尊重しながら行い、その成果をマクロな学問分野と統合化する方向を模索しながら、発展途上国の教育をめぐる諸課題に、日本の内外にあって、積極的な行動により寄与できる人材の養成をめざしている。

その設置目的に添えるため、教育コースは、総合科学部、教育学部、学校教育学部、大学教育研究センター、留学生センターなどとの緊密な連携のもとに、留学生の積極的受け入れ、国際的教育関係セミナー、国際共同教育・教材開発プロジェクト等の推進に、文化コースと二人三脚で意欲的に取り組んでいく。

また、教育学部、学校教育学部が主管となり、毎年実施しているユネスコ関係プロジェクトへも協力体制を組み、その発展を支援していく。

教育コースを支えるのは三大講座、つまり、教育開発講座(教官五人、増

員予定三人、外国人客員教官・未着任一人)、開発基礎教育講座(三人)、及び高等教育交流講座(五人)の、現在計十三人の教官と十八人のほる学内外から協力を得る関連専門分野の教官である。

三大講座の基本的特徴

今、二十一世紀を迎えるにあたり、世界秩序の再編時代の中、世界の目は先進国による発展途上国への経済開発援助はもろろんのこと、新たに人間(自己)開発のための有効な理論と実践プログラムの開発を要請へと急展開をあげつつある。

教育コースは、長期的には世界の、当面はアジアの代表的な教育・研究機関の一つに成長することをめざし、その要請に応えようと、教育開発講座、開発基礎教育講座、高等教育交流講座の三大講座体制でスタートした。

(一)教育開発講座

当面はアジア諸国の教育政策・制度、カリキュラム、教材の分野に焦点を絞り、教育人材育成制度、教科カリキュラム・教材等の現状調査・研究に重点をおき、各国がそれぞれの固有な文化を背景に築き上げてきた教育(人間・自己開発)制度、方法と内容に関し、理論的・実証的な研究・教育を促進する。さらに、新たな改善の方策に向けた新戦略の提言をもたらず応用的教

育・研究を重視する。主要な授業科目は、教育開発計画論、教育開発経営論、教育人材開発論、国際理解教育論、異文化理解カリキュラム論、地理教育開発論、理数科教育開発論、スポーツ・健康科学教育論、国際カリキュラム開発論、現地研究などである。

(二)開発基礎教育講座

アジア諸国の教育課題は、都市部と農村部との間にハード面、ソフト面の双方で大きな格差が存在することである。とりわけ都市の低所得層及び農村部では、住民の基礎学力の水準は一般的に極めて低い。

本講座は、発展途上地域の基礎学力の万人への普及を目標に、識字教材の開発、カリキュラム編成、学習指導法の改善に向けた実践的教育・研究をめざす。

(三)高等教育交流講座

アジア諸国においては、都市部の急速な発展により、初等・中等教育の段階的充実が進み、高等教育の役割や機能の高度化への要求が高まりつつある。同時に教育における国際交流は、国際社会の開発協力を担う人材養成の点でも重要度を増している。

教育コースのカリキュラム

Table with columns for '授業科目' (Lectures) and '博士課程前期' (Pre-Doctoral Course), listing various subjects and lecturers.

政策・制度、方法、内容プログラム等を中心に理論的・実証的な教育・研究をめざす。

学生の入学状況と学習プログラム

教育・文化専攻の博士課程の学生定員は、前期二十八名、後期十四名である。この四月入学の第一期生は、前期の定員を超える三十一人が入学し、そのうち教育コースには二十二名の学生を迎えた。このうち外国人学生は、コース開設の案内が行き届かなかったこともあり、中国からの四名にとどまった。

将来は、半数を留学生が占める予定である。なお、青年海外協力隊経験者や現職教員も、社会人特別選抜で受け入れた。

学習プログラムの編成にあたり、学生は、教育コースのみならず、文化コースの授業、さらには開発科学専攻の各コースからも履修できる。修了要件単位数は三十単位で、学内の他研究科と同じである。しかし、うち十二単位を主任指導教官の指定とし、学生の個人指導体制の強化を図ったこと、また、専門領域以外の共通科目八単位を必修とし、幅広い基礎学力の充実を図った点などに特徴がある。

また、ユニークな科目に国際カリキュラム開発論実習・現地研究がある。受講生は、事前研究で日本理解の教材を開発し、その英語版をアジアの一国の

中学又は高校のクラスでデモンストラーションし、帰国後の事後研究で完成させることになる。

おわりに

教育コースの夢を現実のものにするためには、全学の、とりわけ教育系学部、教育系センターの後押しは欠かすことはできない。教育コースは、発足したばかりで提供できるサービスは少ない。しかし、全学をあげてのご支援をお願いし、夢に近づきたいと思う。(なかやま・しゅういち)